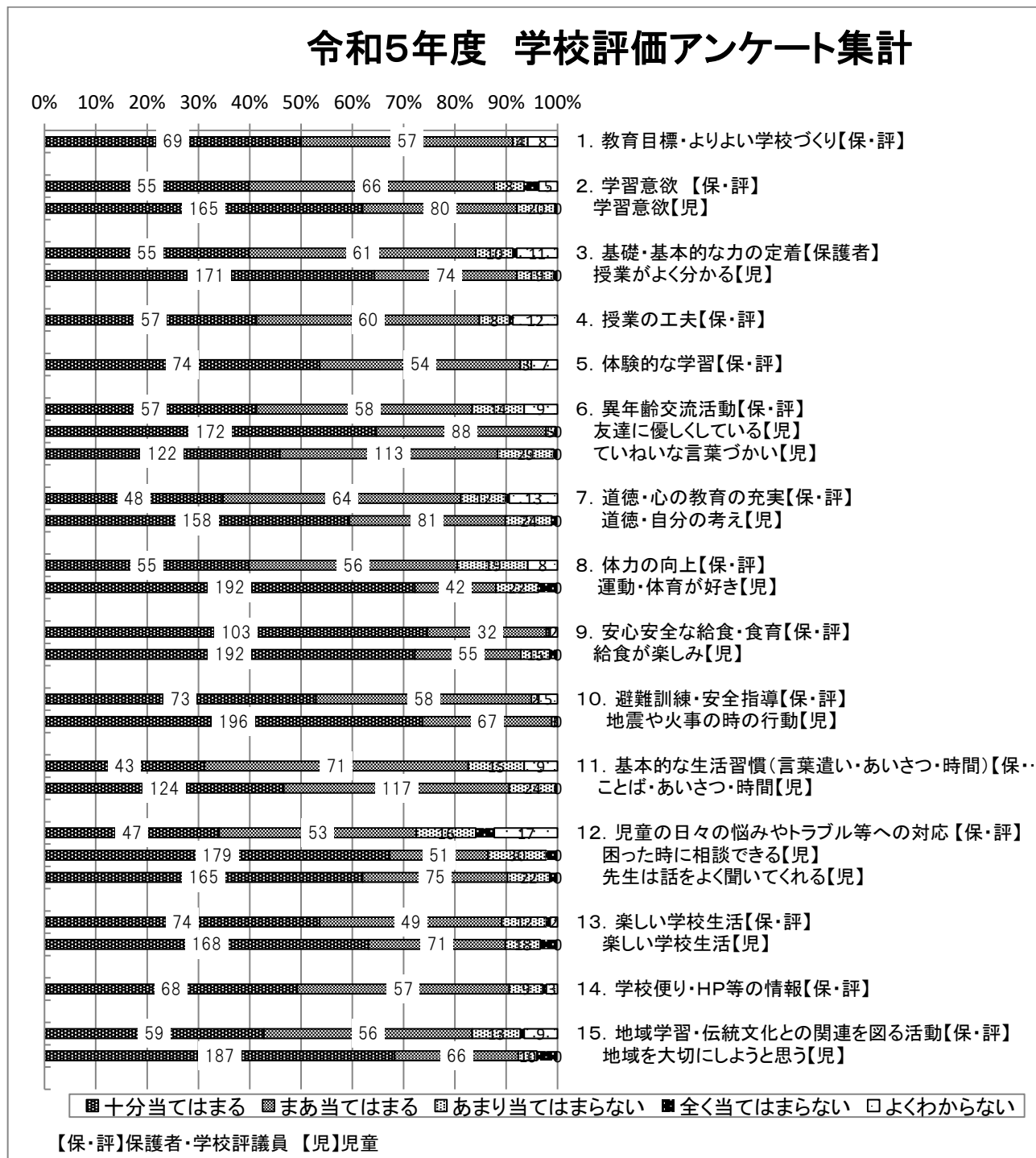


令和5年度 北区立王子第二小学校 自己評価報告書

令和6年2月14日
校長 江口 千穂

1 自己評価の結果と分析

(1) 学校評価アンケート結果



(2) 分析と考察

① 自ら学ぶ子

「授業がよく分かる」と回答した児童の割合は92%であった。北区基礎・基本の定着度調査の結果では、全学年おおむね平均を上回っていることから基礎基本の定着が図られていると捉えている。アンケートにおいては児童の92%が主体的に学習していると回答しているが、定着度調査からは「主体的に学習に取り組む態度」に関する設問の正答率

が全学年を通して低い傾向が見られる。学習課題や問題把握、振り返りの時間等を十分に確保し問題解決的な学習を推進し、主体的に学習に取り組めるようにする。

② 心豊かな子

教育活動全体を通し心の教育・道徳教育の充実を図るとともに、いじめや不登校に対する指導の徹底に努めた。「道徳の時間に自分ならどうするか考えている」と回答した児童の割合が90%である。思いやりの項目については、肯定的な児童98%、保護者が83%である。たてわり班活動や異学年交流の機会を増やす、保護者・地域が活動の様子を参観できるようにする等、よりよい人間関係づくりに向けた取組を周知・広報していく。

③ たくましい子

体力の向上について、肯定的な保護者が80%と昨年度よりも12ポイント減少した。「運動・体育が好き」と回答した児童の割合は88%と昨年度と同様である。区教育研究協力校として体育科の授業研究や休み時間の体力向上の取組（王二オリンピック、長縄週間など）を充実し、児童が楽しく主体的に取り組める工夫を行うとともに運動に親しみ健康に気を付けて生活できるようにする。

④ 特色ある教育活動

「地域を大切にしようと思う」と回答した児童が95%（昨年度より4%増加）、保護者は88%（昨年度より5ポイント増加）である。今年度、地域人材等の講師を招聘し体験的に学ぶ機会の充実については、全学年で校外学習や講師を招聘しての特別授業を行った。（計16回）今後も学校を取り巻く地域・近隣施設の活用、地域に伝わる伝統文化を学ぶ機会の充実に努め、教科横断的な学習を推進し、地域と共に地域の魅力を知り地域を愛する児童を育てていく。

2 改善の方策

（１） 教育活動の充実と工夫

① 健康・安全を守る取組

- ・合同防災訓練の実施や安全教育プログラム・防災ノート等を活用した安全教育のより一層の充実
- ・年間を通した体力向上の取組や健康教育の実施、日常的な体育的活動の充実と体育科の授業改善

② 個に応じた教育の充実

- ・「きたコン」を活用し、個別最適な学び、主体的・協働的な学習のより一層の充実
- ・教科横断的な学習、児童が調べ・体験・まとめ・発表（表現）する活動の充実
- ・WEBQU調査やSC、SSW等と連携した相談機能の充実
- ・巡回指導等による支援が必要な児童一人一人に応じた教育支援体制の強化

（２） ウェルビーイングを高める学校づくり

① 学校全体のウェルビーイングを高める取組の充実

- ・自己理解を深め自他共に大切に思える心情を養う
- ・自分のよさをさらにのばしていく取組の充実（キャリアパスポート等の活用）
- ・教育相談機能の教科、巡回指導教室・SC・SSW等と連携した個に応じた支援の充実

② 学校の組織力の向上

- ・全教職員が「自分ごと」として学校マネジメントに積極的に参画
- ・「チーム学校」として課題解決に向け何ができるのかを考え、実行する
- ・教員研修の充実、教育課題に対応した授業改善や教材開発
- ・授業で勝負できる教員としての資質・能力、授業力の向上

③ 学校の発信力の向上

- ・学校ホームページの充実、迅速な情報発信
- ・「きたコン」を活用した諸連絡等のWEB化、情報共有等の推進